

カリキュラムとGraduation Policy(GP)との相互関係図解一覧表

記入者名	
記入年月日	2024年4月1日
所属	教務課
作成者名	教務課 佐藤 浩一
作成年度	2024年度
更新年度	2028年度

学校教育の教育目的(具体的に記述(国定書書))	学校教育教員養成課程の教育目的(具体的に記述(国定書書))	教科教育コース(美術教育)の教育目的
学校教育および社会のさまざまな分野において教育の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。	子どもを愛し教育および社会の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。児童・生徒の生活環境から課題を抽出し、解決策を提案し、実践能力を持った人材を養成する。	美術・造形芸術の発展と鑑賞の活動を促し、造形文化を積極的に理解し、造形芸術能力と美術・造形理論の探究力の向上をはかり、その専門的素養を教育現場における造形教育指導や他の造形芸術分野の活動において発揮できるように育成する。 画面上での造形教育と造形芸術を統合し、初等教育と中等教育を系統的かつ横断的に理解し、幅広い柔軟な造形教育指導能力を育成する。
学校教育教員養成課程教科教育コース(美術教育)のカリキュラム	学校教育教員養成課程のGraduation Policy(GP) (GPはGP達成のために、特に重要な事項、O=GP達成のために、重要な事項、△=GP達成のために、重要な事項)	教科教育コース(美術教育)のGraduation Policy(GP) (GPはGP達成のために、特に重要な事項、O=GP達成のために、重要な事項、△=GP達成のために、重要な事項)
授業科目名	<p>授業科目の主題 (国定書書)</p> <p>この授業科目に該当するものとなる科目名、単元、テーマ等を国定書書に記入する。</p> <p>授業科目の副主題 (国定書書)</p> <p>この授業科目の学習に際しては、必要に応じて、関連する科目の学習成果を積極的に活用し、国定書書に記入する。</p>	<p>S1: 教育理解を深め、教育の意義や価値を認識し、教育の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p> <p>S2: 教育方法・技術力、指導力、教育実践能力を身に付け、児童・生徒の生活環境から課題を抽出し、解決策を提案し、実践能力を持った人材を養成する。</p> <p>S3: 生活指導力、道徳力、教育実践能力を身に付け、児童・生徒の生活環境から課題を抽出し、解決策を提案し、実践能力を持った人材を養成する。</p> <p>S4: 教育実践能力、教育指導能力を身に付け、児童・生徒の生活環境から課題を抽出し、解決策を提案し、実践能力を持った人材を養成する。</p> <p>A1: 造形芸術の各分野(絵画、彫刻、写真、デザイン、工芸)の専門的素養を身に付け、その専門的素養を教育現場における造形教育指導や他の造形芸術分野の活動において発揮できるように育成する。</p> <p>A2: 造形芸術の専門的素養を身に付け、その専門的素養を教育現場における造形教育指導や他の造形芸術分野の活動において発揮できるように育成する。</p> <p>A3: 造形芸術の専門的素養を身に付け、その専門的素養を教育現場における造形教育指導や他の造形芸術分野の活動において発揮できるように育成する。</p> <p>A4: 国際工芸科教育と美術教育を統合し、初等教育と中等教育を系統的かつ横断的に理解し、幅広い柔軟な造形教育指導能力を育成する。</p>
学習到達目標		
<p>総合的学習</p> <p>人間に共通する課題や日本社会に関わる課題について学ぶ。</p>	<p>1. 人間や日本社会の課題を把握し、説明できるように課題を分析・検討し、自分の意見を述べることができる。</p> <p>2. 上記の課題についての自分の意見を相手に伝えることができる。</p>	<p>1. ②</p> <p>2. ②</p>
<p>外国語に関する科目(小・中)</p>		
<p>外国語</p> <p>1. 外国語の意義や魅力、求められる資力、能力について理解する。</p> <p>2. 外国語の学習の意義や価値を認識し、外国語の学習の意欲や学習の態度を育てる。</p>	<p>1. 外国語の意義や価値を認識し、外国語の学習の意欲や学習の態度を育てることができる。</p> <p>2. 外国語の学習の意義や価値を認識し、外国語の学習の意欲や学習の態度を育てることができる。</p>	<p>1. ②</p> <p>2. ②</p> <p>3. ②</p>
<p>教育実践</p> <p>1. 教育の意義や価値、求められる資力、能力について理解する。</p> <p>2. 教育の意義や価値を認識し、教育の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p>	<p>1. 教育の意義や価値を認識し、教育の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p> <p>2. 教育の意義や価値を認識し、教育の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p>	<p>1. ②</p> <p>2. ②</p> <p>3. ②</p>
<p>教育哲学</p> <p>1. 教育哲学の学問的性質</p> <p>2. シュプラングラーの生涯と教育哲学</p> <p>3. シュタイナーの教育哲学とシュタイナー学校の教育</p>	<p>1. 教育哲学の学問的性質を理解できる。</p> <p>2. シュプラングラーの生涯と教育哲学を理解できる。</p> <p>3. シュタイナーの教育哲学とシュタイナー学校の教育の特色を理解できる。</p>	<p>1. ②</p> <p>2. ②</p> <p>3. ②</p>
<p>教育史</p> <p>1. 日本の教育の歴史、思想の歴史的展開</p> <p>2. 日本の教育の歴史的性格</p>	<p>1. 日本の教育の歴史、思想の歴史的展開を理解できる。</p> <p>2. 日本の教育の歴史的性格を理解できる。</p>	<p>1. ②</p> <p>2. ②</p> <p>3. ②</p>
<p>発達心理学</p> <p>1. 人間の発達の特徴・要因について理解する。</p> <p>2. 発達心理学の発達課題について理解する。</p> <p>3. 学校・家庭・地域など身近な環境での発達発達として捉える。</p>	<p>1. 人間の発達の特徴・要因について理解し、説明することができる。</p> <p>2. 発達心理学の発達課題について理解し、説明することができる。</p> <p>3. 学校・家庭・地域など身近な環境での発達発達として捉え、説明することができる。</p>	<p>1. ②</p> <p>2. ②</p> <p>3. ②</p> <p>4. ②</p> <p>5. ②</p>
<p>教育心理学</p> <p>1. 学校における教育活動における子どもたちの心理的発達を促すことができる。</p> <p>2. 児童・生徒の発達と学習の原理、個性の理解、さらに障害児児童の心理的発達を促すことができる。</p> <p>3. いろいろな指導法や心理療法について理解する。</p>	<p>1. 子どもの心理的発達を促すことができる。</p> <p>2. 児童・生徒の発達と学習の原理、個性の理解、さらに障害児児童の心理的発達を促すことができる。</p> <p>3. いろいろな指導法や心理療法について理解し、説明することができる。</p>	<p>1. ②</p> <p>2. ②</p> <p>3. ②</p> <p>4. ②</p> <p>5. ②</p>
<p>教育社会学</p> <p>1. 社会学とは、人間社会における子どもたちの社会的発達(=社会化)について理論的・実証的に理解すること。また、教育社会学の基礎を学ぶ。</p>	<p>1. 社会学とは、人間社会における子どもたちの社会的発達(=社会化)について理論的・実証的に理解すること。また、教育社会学の基礎を学ぶ。</p>	<p>1. ②</p> <p>2. ②</p> <p>3. ②</p> <p>4. ②</p>
<p>教育制度</p> <p>1. 学校教育には様々な「制度」「仕組み」が存在している。それらについて、テキスト、ビデオ、配付資料をベースに理解を深め、基本に即して実践的探究を行う。</p>	<p>1. 学校教育には様々な「制度」「仕組み」が存在している。それらについて、テキスト、ビデオ、配付資料をベースに理解を深め、基本に即して実践的探究を行う。</p>	<p>1. ②</p> <p>2. ②</p>
<p>教育法規</p> <p>1. 教育法規を初めが若者を対象に、教育活動の準備を促すことができる。また、その意義や価値を認識し、教育の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p>	<p>1. 教育法規を初めが若者を対象に、教育活動の準備を促すことができる。また、その意義や価値を認識し、教育の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p>	<p>1. ②</p> <p>2. ②</p>
<p>社会教育</p> <p>1. 生涯学習の観点から社会教育を推進すること。また、社会教育の意義や価値を認識し、社会教育の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p>	<p>1. 生涯学習の観点から社会教育を推進すること。また、社会教育の意義や価値を認識し、社会教育の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p>	<p>1. ②</p> <p>2. ②</p>
<p>国際理解教育</p> <p>1. 国際理解の意義や価値を認識し、国際理解の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p> <p>2. 国際理解の意義や価値を認識し、国際理解の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p>	<p>1. 国際理解の意義や価値を認識し、国際理解の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p> <p>2. 国際理解の意義や価値を認識し、国際理解の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p>	<p>1. ②</p> <p>2. ②</p> <p>3. ②</p>
<p>教育方法論</p> <p>1. 授業の基本的原則</p> <p>2. 主体的な学びの促進と指導</p> <p>3. 教育課程の編成</p>	<p>1. 授業の基本的原則を理解し、説明することができる。</p> <p>2. 主体的な学びの促進と指導について理解し、説明することができる。</p> <p>3. 教育課程の編成と方法について理解し、説明することができる。</p>	<p>1. ②</p> <p>2. ②</p> <p>3. ②</p>
<p>教育メディア活用(情報処理、情報通信、ICT活用)</p> <p>1. 教育現場におけるICTの活用について理解し、説明することができる。</p> <p>2. 教育現場におけるICTの活用について理解し、説明することができる。</p>	<p>1. 教育現場におけるICTの活用について理解し、説明することができる。</p> <p>2. 教育現場におけるICTの活用について理解し、説明することができる。</p>	<p>1. ②</p> <p>2. ②</p> <p>3. ②</p> <p>4. ②</p> <p>5. ②</p>
<p>道徳教育</p> <p>1. 道徳の意義や価値を認識し、道徳教育の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p> <p>2. 道徳の意義や価値を認識し、道徳教育の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p>	<p>1. 道徳の意義や価値を認識し、道徳教育の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p> <p>2. 道徳の意義や価値を認識し、道徳教育の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p>	<p>1. ②</p> <p>2. ②</p>
<p>特別活動</p> <p>1. 特別活動の意義や価値を認識し、特別活動の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p> <p>2. 特別活動の意義や価値を認識し、特別活動の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p>	<p>1. 特別活動の意義や価値を認識し、特別活動の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p> <p>2. 特別活動の意義や価値を認識し、特別活動の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p>	<p>1. ②</p> <p>2. ②</p> <p>3. ②</p>
<p>生徒指導</p> <p>1. 生徒指導の意義や価値を認識し、生徒指導の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p> <p>2. 生徒指導の意義や価値を認識し、生徒指導の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p>	<p>1. 生徒指導の意義や価値を認識し、生徒指導の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p> <p>2. 生徒指導の意義や価値を認識し、生徒指導の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p>	<p>1. ②</p> <p>2. ②</p> <p>3. ②</p>
<p>教育相談・進路指導</p> <p>1. 教育相談の意義や価値を認識し、教育相談の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p> <p>2. 教育相談の意義や価値を認識し、教育相談の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p>	<p>1. 教育相談の意義や価値を認識し、教育相談の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p> <p>2. 教育相談の意義や価値を認識し、教育相談の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p>	<p>1. ②</p> <p>2. ②</p> <p>3. ②</p>
<p>専攻・専修指導</p> <p>1. 専攻・専修の意義や価値を認識し、専攻・専修の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p> <p>2. 専攻・専修の意義や価値を認識し、専攻・専修の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p>	<p>1. 専攻・専修の意義や価値を認識し、専攻・専修の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p> <p>2. 専攻・専修の意義や価値を認識し、専攻・専修の発展を促す貢献を大任を担うことを目的とする。</p>	<p>1. ②</p> <p>2. ②</p> <p>3. ②</p> <p>4. ②</p> <p>5. ②</p> <p>6. ②</p> <p>7. ②</p> <p>8. ②</p>
<p>小・中・高に関する科目(小)</p>		

知育科基礎	1. 小学校低学年の生活科授業を審判して行く上で必要な基礎、前習、後習等の知識、技能の修得を目指す。	1. ① 2. ②							
知育科音楽	小学校における音楽科の教育実践に必要な音楽の専門的な知識や技術について指導する。	1. ① 2. ② 3. ③							
小学校教習準備	①アノ漢字の基礎と、その発展した形として、簡体字及び繁体字の習得を学習する。	1. ① 2. ②							
知育科図画工作	小学校の図画工作科の授業をする上で必要な美術の基礎的技術、知識を習得する。平面造形、立体造形、鑑賞の3つの分野を学習する。	1. ① 2. ② 3. ③							
知育科体育	1. 小学校体育における各種の運動教材のうち、実技を通じた学習として体操、器械運動とタフソフトボールを学習する。 2. 実技とは別に、体操、器械運動とタフソフトボールを遠中交代練習してそれぞれ2回ずつ行う。	1. ① 2. ② 3. ③							
知育科家庭	小学校で、家庭科を指導するために必要な基礎知識を習得する。食生活、健康、住居・家族の4領域について学ぶ。	1. ① 2. ② 3. ③							
教科に関する科目(中学校専門科目)									
平面造形基礎	1. 平面に於ける造形を対象として美術一般の基礎的な表現を学習する。 2. 点・線の面取りから始め、形・面の知識をまず体得し、要人の面に応じて顔部、胸部、立像へと進む。	1① 2② 3③ 4④							
絵画	平面に於ける造形を対象として美術一般の基礎的な表現を学習する。	1① 2② 3③ 4④ 5⑤							
絵画Ⅱ(メディア表現を含む。)	映像メディアが絵画表現に与えた影響に注目し、様々な表現手法を表現に取り組み、(コラージュや、写真による表現を含む。)	1① 2② 3③							
絵画Ⅲ	人様をモチーフに平面におけるデザイン性の向上と油彩表現の多様性を学習する。	1① 2② 3③							
絵画Ⅳ	平面に於ける造形を対象とし、ポップアート以降の現代美術に関する絵画を例にとり、絵画の具象性や抽象性について考察する。	1① 2② 3③ 4④							
絵画Ⅴ	1. 近、現代の美術の動向の概要を解説する。 2. 自身の創作における意味・意図・表現方法を研究し、その形式で発表する。 3. 自身の創作における材料選択、技法の選択などに関し、同じ形式や技法に注目するだけでなく、新しい技法や、素材を自分自身の感性で生かすことができる。	1① 2② 3③							
立体造形基礎	様々な立体造形の基礎として、量感・フォルム、質感・アース・カラー・空間感、動きなどを基礎的知識として習得し、立体的な表現を通して、感覚的・理論的に学ぶ。	1① 2② 3③							
彫刻	彫刻の基礎として、量感・形態・レリーフの基本的な理論・技法を制作を通して学ぶ。	1① 2②							
彫刻Ⅱ	土、金属、木材、石材、ガラス、プラスチックなど様々な素材が彫刻の制作を行い、彫刻の基礎を学ぶ。	1① 2②							
彫刻Ⅲ	様々な材料による彫刻作品を制作する。	1① 2②							
デザイン	1. デザイン・造形の基礎である造形要素と視覚言語について、講義と演習を行う。 2. 造形要素では形、色、材質感について習得し、視覚言語を利用した作品制作を行う。	1① 2② 3③							
デザインⅡ	立体構成とデザインについて作品制作を行う。	1① 2②							
デザインⅢ(実践を含む。)	1. 映像表現の中で写真技術を利用して視覚伝達デザインの学習を行う。 2. 写真技術全般の解説とフィルム写真の技術解説を通して、撮影、後処理を行う。 3. 伝達デザインのための造形要素と視覚言語を写真、映像を利用して表現する。 4. 互に、テーマを設定して写真作品を制作する。	1① 2②							
デザインⅣ	デザインの目的を知り、社会的な問題に関心をもて実質化する。	1① 2② 3③							
総合造形	環境デザインに関する基礎的・総合的な学習を行う。	1① 2② 3③ 4④ 5⑤ 6⑥ 7⑦							
工業Ⅰ	木工工業の基本内容について実習を行う。								
工業Ⅱ	銅板意匠とデザインとの関連から、木工工業の発展を行う。								
工業Ⅲ	粘土作品を作った後、自分で陶芸作品を制作する。	1①							
工業Ⅳ	陶芸の基礎的知識を踏まえて、より高度な陶芸作品を制作する。	1① 2②							
工業Ⅴ	陶芸での卒業研究を前提として、各テーマを定めて作品を制作したり材料研究をする。	1①							
美術Ⅱ	1. 過去の美術や芸術に関する思想のアクロイドを説明できる。 2. 美術や芸術という概念について、考察や議論ができることにより、作品を鑑賞すること、創ること、まねることを考察する。	1① 2② 3③							
美術Ⅲ	西洋絵画史に関してとくにルネッサンス以降、19世紀初頭の絵画の成立までを歴史的流れに重点を置いて解説する。	1① 2② 3③							
美術Ⅳ	1. 日本の美術史(縄文時代から戦国時代までの絵画史の概観を説明できる。 2. 各時代に生まれた絵画作品の歴史的背景について、社会的、文化的背景を把握し、考察できる。 3. 西洋絵画の歴史を知ることで、社会、文化など幅広い視野に対する国際理解への関心を高める。	1① 2② 3③							
美術Ⅴ	1. 日本美術史、とくに日本の近世絵画史(室町時代-江戸時代)に関して、西洋とスタイルという観点から論議する。また、日本をとりまく当時の東アジア諸国とのつながりも含む。	1① 2② 3③							

美術史	1. 古美術、現代美術等に関して、実際の美術作品を鑑賞、体験する実地研修。2. 研修コースについては、毎年変更し、実地の前に提示連絡する。	1. 印刷物等では、見ることのできない生の作品の迫力を通して、作品に対する知識や理解を深める。 2. 実地にその場を味わうことにより、その周辺、あるいは前次資料をもふくめた上で、作品の理解に促される。 3. 実作でした味わえないものを通して、そのものに対する関心を喚起する。 4. 鑑賞に対する積極的な態度を期待する。				1◎ 2◎ 3◎	1◎ 2◎ 3◎	1◎ 2◎ 3◎	1◎ 2◎ 3◎
芸術教育論	美術にかかわる教育の問題を講義する。	1. 表現教育の多様性を知る。 2. 外国の美術教育について知る。	1◎ 2◎	1◎ 2◎		1◎ 2◎	1◎ 2◎	1◎ 2◎	1◎ 2◎
卒業研究						1◎	1◎	1◎	1◎
卒業研究	1. 美術教育課程の学生全員が卒業研究として、教科専門科目分野の選択に基づき分野別に分科（科別）として論文形式での卒業研究を進める。2. ネット・論文の書き方については、3年次の「美術科教育学Ⅱ」において、実習体験中の課題学習がテーマを設定し、それを履修レポート作成によって解決することを体験済みである。3. その中の経験を基かして、美術の内容・技法・技法論、教材論等について調査・考察し論文として提出する。	1. 卒業研究としての教科専門科目分野の選択に基づき、自分の制作中の進捗内容に照らしながら設定して論文形式での進捗ができる。				1◎	1◎	1◎	1◎
卒業研究									
卒業研究									

◎卒業研究発表会方法（具体的に記述・審査書等）

◎卒業研究発表会方法（具体的に記述・審査書等）